

学科名		学年	授業のタイトル（科目名）	
工業専門課程 情報処理システム科		2	ビジネスケーススタディ	
授業の種類		授業担当者	実務経験	
☒ 講義 ☒ 演習 ☐ 実習		大西 健太郎	☒ 有 ☐ 無	
[実務経験歴]				
気象予報士の資格を取得後、民間の気象会社に勤務。日々の予測業務を中心に、細かな情報解析や予測を行う。				
単位数（授業の回数）		時間数☒	配当時期	必修・選択
2 単位 （ 30 回 ）		60 時間	☐ 前期 ☐ 後期 ☒ 通年	☐ 必修 ☒ 選択
[授業の目的・ねらい]				
①異なるモデルの専門天気図(GSM資料、アンサンブル資料)の違いを理解する				
②各モデルの数値予報資料の結果をもとに、週間天気予報を作成する				
③外国の数値予報モデルの結果や台風進路図などの資料を週間天気予報に取り入れる考え方を理解する				
[授業全体の内容の概要]				
①週間用の専門天気図等の見方・予測について				
②予測の安定度の解釈について				
③外国の数値予報モデルの扱いおよび解釈について				
[授業終了時の達成課題(到達目標)]				
専門天気図の見方を習得し自身で72～192時間後にかけての天気予測を行うことができる。				
[準備学習の具体的な内容]				
毎授業ごとに復習の有無の確認を行い、講義・実習を進める。授業終了時には、講義内容の確認と次回の授業内容を説明し、復習・予習ができるようにする。また、長期休みの時は、課題を実施する。				
[使用テキスト]			[単位認定の方法及び評価の基準]	
使用テキスト プリント教材(日本コンピュータ専門学校)			定期試験と出席日数の両方が次の規定に達した場合に認定する。	
参考文献			・試験の点数は60点以上を合格点とする。	
必要に応じて授業の中で紹介する。			・全出席日数の4分の3以上の出席が必要。	
			評価基準	
			定期試験50%、平常点（出席、講義の参加度）50%とする。	
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				
1回	授業の進め方について（オリエンテーション）、週間予報の考え方について			
2回	週間予報実技1			
3回	週間予報実技2			
4回	週間予報実技3			
5回	週間予報実技4			

6回	週間予報実技5
7回	週間予報実技6
8回	まとめと振り返り
9回	週間予報実技7
10回	週間予報実技8
11回	週間予報実技9
12回	週間予報実技10
13回	週間予報実技11
14回	週間予報実技12
15回	まとめと振り返り
16回	週間予報実技13
17回	週間予報実技14
18回	週間予報実技15
19回	週間予報実技16
20回	週間予報実技17
21回	週間予報実技18
22回	まとめと振り返り
23回	週間予報実技19
24回	週間予報実技20
25回	週間予報実技21
26回	週間予報実技22
27回	週間予報実技23
28回	週間予報実技24
29回	週間予報実技25
30回	まとめと振り返り